

④ 評価や指導への活用

ノートの評価や指導に役立てよう!

ノートは、生徒自身の成長の記録であり、手元に残るものです。生徒が自分の学習状況や考え方について振り返ることで、自分の成長を実感することができます。

またノートがあると、道徳科における生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握できます。ノートの巻末にある、学期末・年度末の振り返り欄も活用して、生徒一人ひとりの成長を励ます「個人内評価」をよりよいものにしましょう。

ノートの見方と道徳科の評価

ノートを見るときは、右図のポイントを参考に生徒の成長を見取りましょう。

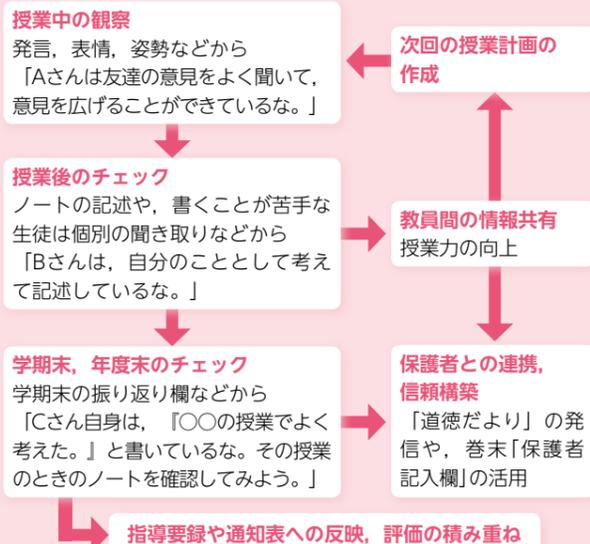
ただし、書くことが苦手な生徒もいるので、記述だけを重視せず、授業中の意見発表なども考慮しましょう。また、静かに自分を見つめている生徒もいるかもしれません。授業中の挙手やノートだけで評価するのではないと意識し、授業後に生徒へ声かけやノートへ書き添えをすることなども必要です。

指導要録や通知表への評価の書き方は、先行実施している小学校を参考にしてもよいです。小中連携のためにも評価方法を協議するとよいでしょう。

最後に

生徒の道徳性は、道徳科の時間だけで育つものではありません。常に生徒を見届け、認め、励まし、伸ばしていきましょう。『道徳ノート』はその手段の一つです。

ノートを活用した評価の流れ



ノートを見るときのポイント

- ① 回を重ねること、記述量の増加や内容の深まり：授業に真剣に参加している証です。前向きに認め励ましてください。
- ② 多面的・多角的な見方、考え方の育ち：「自分をはじめ〇〇と考えていたけれど、友達の意見を聞いて□□と感ずることができた。」のような友達の意見をもとにした成長の言葉を大切に、アドバイスしましょう。
- ③ 自分自身との関わりの中での深まり：「自分は今まで◇◇だったけれど、これからは△△したい。」のように自分の経験に照らして道徳的価値について考えている点を取り上げましょう。
- ④ 他内容との関連づけ：「友情の学習をしたときに……」「理科の時間で……」など、内容項目同士の関係を考えて、他教科などと結びつけたりしている点を見取りましょう。

【道徳科の評価の方向性】

- 『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）』文部科学省より
- ・生徒一人ひとりの学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る
- ・数値ではなく記述式で評価
- ・個々の内容項目ごとではなく大きくまとまりを踏まえた評価
- ・他の生徒との比較ではなく、生徒の成長を積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価
- ・観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などをとおして見取る
- ・入学選抜の合否判定に活用しない

中学道徳 あすを生きる『道徳ノート』活用のアイデア

日文 教授用資料

令和元年（2019年）7月12日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本資料は平成31年（2019年）度版中学校道徳科内容解説資料として扱われます。本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33468

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690

日文 教授用資料

保存版

中学道徳 あすを生きる

『道徳ノート』活用のアイデア



大切なわたしの一冊へ



もくじ

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ① 『道徳ノート』の活用にあたって | 高崎健康福祉大学特任教授 石川 勉 …… 2 |
| ② 実践事例2年「ネット将棋」 | 呉市立仁方中学校教諭 谷水 強 …… 4 |
| ③ 実践事例3年「本とペンで世界を変えよう」 | 筑波大学附属中学校教諭 多田 義男 …… 6 |
| ④ 評価や指導への活用 | 高崎健康福祉大学特任教授 石川 勉 …… 8 |

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の教科書情報

詳しくはWebへ!

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

① 『道徳ノート』の活用にあたって

ノートの活用は何のため?

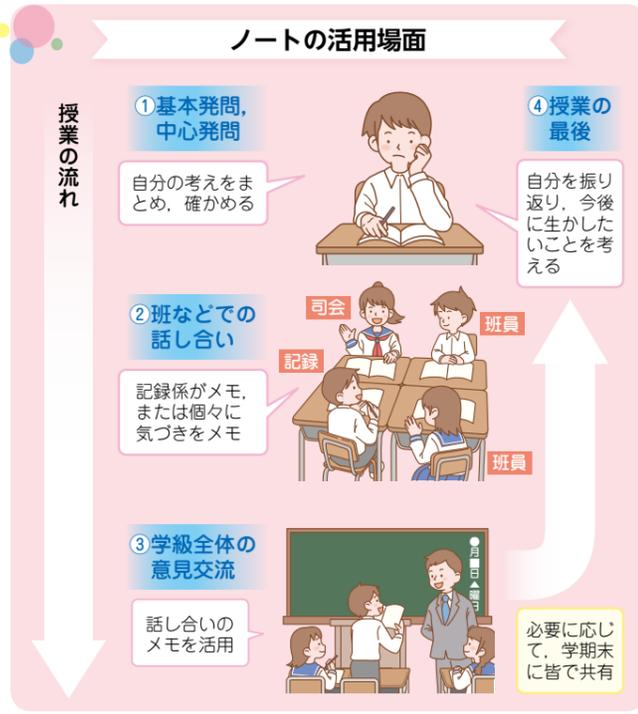
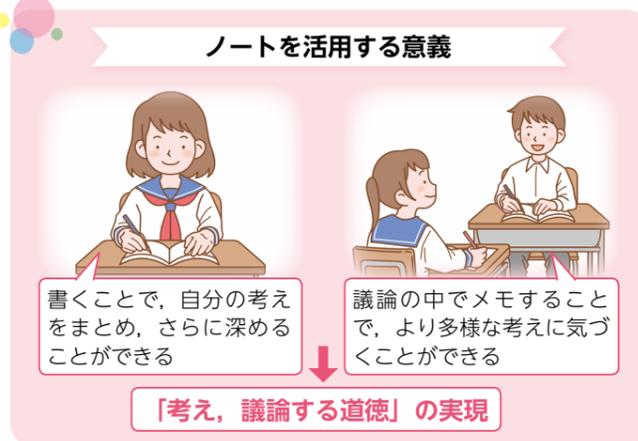
道徳科でノートを使うのはなぜでしょうか。必ずしもノートを使う必要はありませんが、道徳科の授業中1回くらいは生徒に書かせることがあるのではないのでしょうか。逆にワークシートなどに書き込ませる時間が多すぎても、生徒の道徳嫌いを生んでしまい、授業のねらいに到達できません。

道徳科でノートを使うのは、「考え、議論する道徳」を実現しやすくするためです。そして、生徒の学習を記録として残し、積み重ねるためです。ノートはそのための道具であり、言語活動の充実にもつながります。

どんな場面で使うの?

ノートは、次のような場面で活用できます。

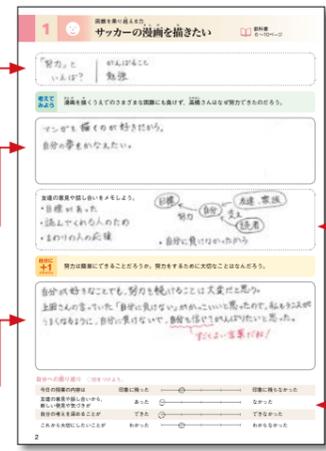
- ① **基本発問、中心発問**…ねらいとする道徳的価値について、自分の考えをまとめ、確かめることができます。
- ② **班などでの話し合い**…友達と議論し、考え合い、深め合うときに、メモとして利用できます。
- ③ **学級全体の意見交流**…話し合いのメモをもとに発表したり、友達の意見をメモしたりすることで、多面的・多角的な見方やより広く深い考え方に気づくことができます。
- ④ **授業の最後**…授業をもとに自分を振り返ることで、自分の考えをさらに深めることができます。



自由記入欄
導入発問や、「本時のテーマ」などを記入できます。授業をした日付などを入れてもよいでしょう。

「考えてみよう」欄
中心発問に対する自分の考えをしっかりと書かせる、という使いだけでなく、自由に記入させ議論に役立ててください。発問に斜線を引き、別の発問に変更することも可能です。

「自分に+1」欄
授業の後半で、「今後自分に生かせることは何か?」「感想を書いてみよう。」などと問いかけて生徒に書かせてもよいでしょう。



ノートのすべての欄に記入する必要はありません。ノートに書くのは授業中1回でも十分です。

「友達の意見や話し合いをメモしよう。」欄
議論の最中、また授業の後半でねらいに迫るときなどに活用しましょう。班などでの話し合いで、記録係の生徒が活用してもよいでしょう。

「自分に振り返り」欄
時間をかけず簡単に、生徒が自分の学習を振り返るためのもので、先生の授業改善にも役立ちます。先生による数値や段階別、項目別の評価を求めるものではありません。

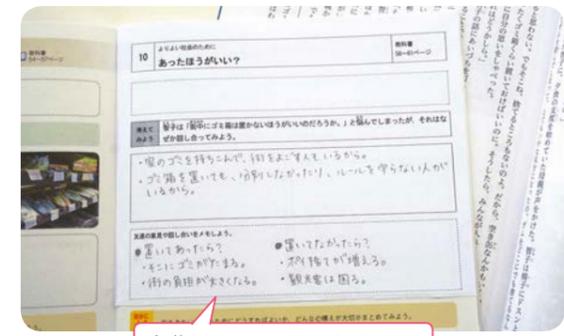
型にはまらず自由に活用!

手作りのファイルやノートを作成している先生は、型のあるノートを使いにくく感じるかもしれません。しかし、アイデア次第で、より自由に生徒の大切な一冊を作り上げることが可能です。

たとえば発問などを変更する場合は、自作ワークシートを貼り付けることができます。郷土の教材を使うときも同様です。また、事前アンケート結果や参考資料、授業後の追加プリントを貼ってもよいでしょう。

さらに、生徒自身が心に残った大切な言葉を書き残したり、絵を描いたりするためのページを貼って追加してもよいでしょう。

※ワークシートのデータは、教師用指導書付属・デジタルデータ集に収録されています。

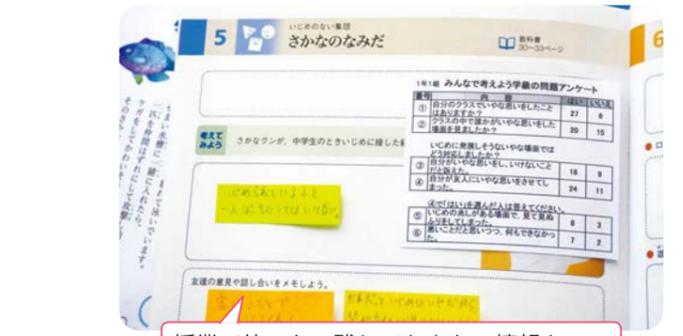


自作のワークシートを……

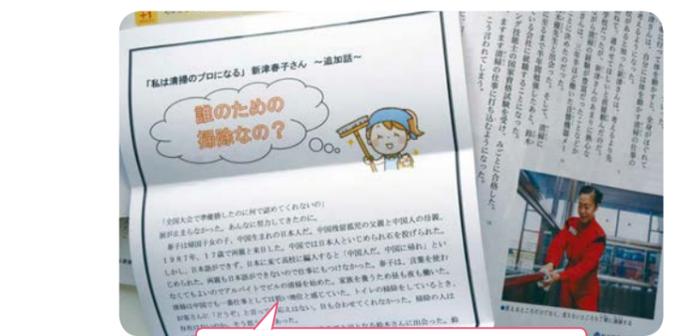
中学校の特質に応じて活用!

中学校では、各教科の先生方、部活動顧問の先生方が、それぞれ専門性や得意分野を持っています。生徒の興味関心を高めるために、たとえば数学や理科の先生なら数学者や物理学者などの偉人の言葉を、部活動を題材にした教材では関連する感動的な逸話などを、補助資料として示してみましょう。その内容を皆で共有し、ノートに貼るとよいでしょう。

また副担任制なので、ローテーション授業の調整もしやすいです。複数回授業を行うことで授業力向上も期待できます。ぜひノートをとおして生徒の反応や成長をチームで共有し、指導に活かしましょう。



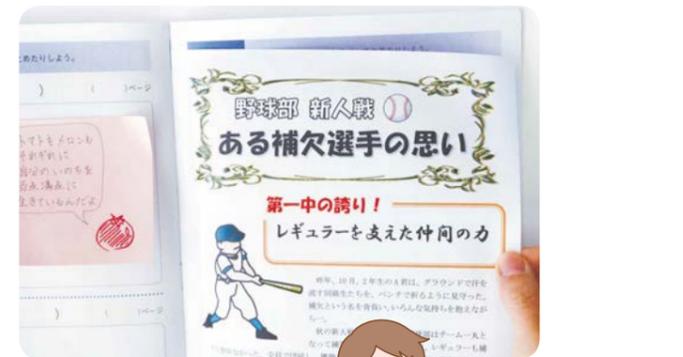
授業で使った、残しておきたい情報を……



先生のもっている感動のお話を……



生徒の心に残った大切な言葉や絵を……



チームで生徒の成長の共有を!



② 実践事例2年「ネット将棋」『中学道徳 あすを生きる』2年p.66

内容項目 A-(1) 自主, 自律, 自由と責任

ねらい 誠実に行動することの大切さを理解し, 自主的に行動しその結果に責任をもとうとする態度を育てる。

	学習活動	指導上の留意点【発問の意図】
導入 5分	<p>1 将棋について興味をもつ。</p> <p>発問○将棋の「3つの礼」を知っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お願いします。」 ・「負けました。」 ・「ありがとうございました。」 	<p>○将棋は敗者が負けを認めなければ終われないもので, この瞬間が将棋を指すうえでもっともつらく悔しいことを押さえる。また「感想戦」についても触れておく。</p>
展開 37分	<p>2 教材「ネット将棋」を読み, 考える。</p> <p>発問①いやそうな顔もせず, 駒を片づける敏和を見て, 「僕はどんなことを思っていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負けるはずがないと思っていたのに, まったく相手にならなかった。 ・敏和に自分の卑怯なやり方を見透かされているようだ。 ・敏和に余裕があるように見えた。 <p>発問②「僕」がネット将棋からいきなりログアウトしたのは, どうしてだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が誰だかわからないのに, 「負けました。」と言いたくなかったから。 ・こっちも相手が見えないけど, 相手もこっちが見えないから。 <p>★発問③「考えてみよう」敏和のツッコミに笑えなかった「僕」は, どんなことを考えたのだろう。ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに相手が見えないからといって, 「負けました。」と言えなかったことが情けない。 ・相手に対して, また将棋に対して真面目に取り組んでいなかったことへの罪悪感があった。 ・心からのあいさつができていなかった。 ・勝てばそれでいいと思っていた。 <p>補助発問 敏和の「目には見えない相手とどう向き合うかで, 自分が試されてる」の言葉を, 「僕」はどう受け取ったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が見えないからこそ, 自分の行動に責任をもたなければならない。 	<p>範読時間：約7分 準備物：場面絵</p> <p>○「負けました。」と素直に認められない, 嫉妬やあせり, 勝てないとおもしろくないといった自己中心的な考えによって「僕」が行動しているのを感じとらせる。</p> <p>○「僕」が気分や感情に流され, 不誠実に振る舞っていることを押さえ, その行動に責任を感じていないことに気づかせる。</p> <p>○相手のことがわからないと, 不誠実に行動してしまうという, 人間の心の弱さに共感させる。</p> <p>○敏和の言葉によって, 「僕」が自分の行動をどのように振り返っているのかを考えさせることで, 後悔や反省, 相手に対する思いやりなどに気づかせる。</p> <p>○目には見えない相手に対しても, 自分の良心に従い, 誠実に行動することの大切さを自覚させる。</p> <p>○主題名「インターネット上での責任ある行動」につなげるため, 「目には見えない相手」に焦点化して考えさせる。</p>
終末 8分	<p>3 今日の学習を振り返る。</p> <p>発問「自分+1」インターネット上では, 相手が見えないために責任もてない行動が起きやすいが, どんなことに気をつければよいだろう。ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考える。 ・相手が見えないからこそ, 責任をもつ。 	<p>○学習を振り返って自分の考えをまとめさせ, 評価につなげる。</p>



授業準備の留意点

スマートフォンなどの普及により, 生徒がインターネットを利用する機会が増え, 生活が便利になる反面, ゲーム依存やSNSによる「いじめ」などの問題も深刻化しています。インターネットが生徒にとって身近であるからこそ, インターネット上の見えない相手に対しても自分の言動に責任をもち, 誠実に行動することの大切さを考えさせましょう。

授業中のポイント

導入では, 将棋の「3つの礼」などの礼儀や「感想戦」について触れておきます。最近将棋ブームですが, 馴染みのない生徒も多いと思われます。とくに, 将棋は敗者が負けを認めなければ終われないもので, このときが将棋を指すうえでもっともつらく悔しい瞬間であることを押さえます。

中心発問では, お互い相手が見えないからといって自分勝手に無責任な行動をしてしまったことへの後悔や反省について気づかせます。さらに, 将棋に対しての不誠実さについても気づかせたいです。

ノート記入時のポイント

★発問③「考えてみよう」敏和のツッコミに笑えなかった「僕」は, どんなことを考えたのだろう。

ソフトボールの監督の言葉に納得できない明子に共感する「僕」が, 智子と敏和の会話を聞き, 自分の行動をどのように振り返り, 後悔や反省, 相手に対する思いやりを気づいたのかを, 生徒自身との関わりで考えさせます。まず, 自分の考えを4分ほどでノートに書かせ, その後グループで話し合わせます。

また, グループからの発表のあと, 敏和の「目には見えない相手とどう向き合うかで, 自分が試されてる」や, 明子の「『負けました。』と言える試合をすればいいんだ。」の言葉について全体に投げかけ考えさせることで, 相手に対する誠実さや試合・対局への向き合い方について考えを深めさせます。

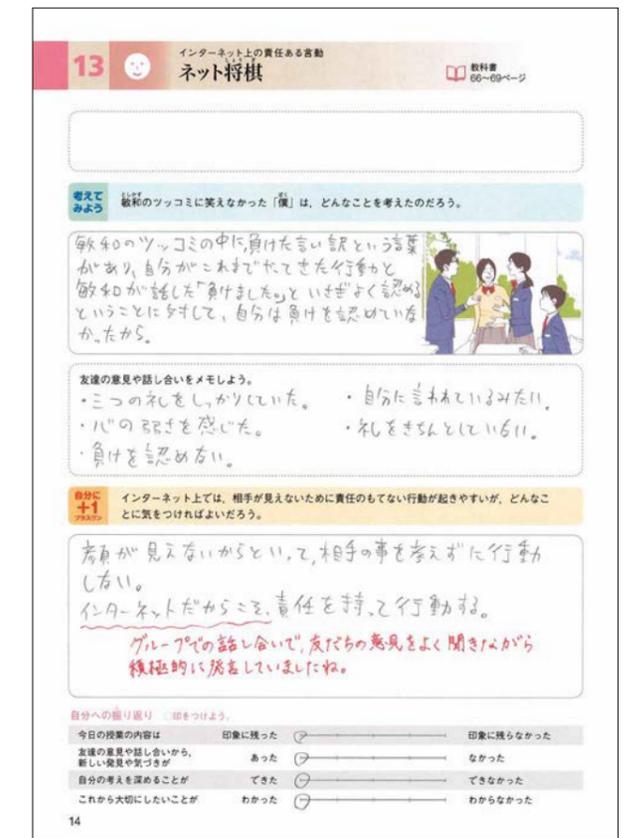
メモしながら話し合わせ, 友達の意見から多面的・多角的な見方を取り入れながら自分の考えを深めさせます。

授業後の留意点

ねらいと生徒自身の日常生活との関連をさらに深めるため, 授業の終わりにコラム「そんなつもりじゃなかったのに……」を活用し, 日常生活とは異なるインターネット上での言葉の使い方を紹介します。詳しくは空き時間に読むように指示し, 言葉が自分の思いとは違う伝わり方をするに気づかせます。また, 技術・家庭の「情報の技術」と関連させることも道徳の実践意欲と態度を育てるうえで有効です。

ノートの「友達の意見や話し合いをメモしよう。」の記述から, 話し合いをとおして多面的・多角的な見方ができているか, 「自分+1」の記述から, 自分自身との関わりの中で深めているかを見取ります。

また, 教師が, 本時のねらいに関する記述にアンダーラインを引いたり, 授業中の生徒の発言や様子などを評価としてノートに書き添えたりしておきます。そうすることで, 学期末などに評価するとき役に立てることができます。



③ 実践事例3年「本とペンで世界を変えよう」『中学道徳 あすを生きる』3年p.168

内容項目 C-(18) 国際理解, 国際貢献

ねらい マララの生き方から、国際的な視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする心情を育てる。

	学習活動	指導上の留意点【発問の意図】
導入 5分	<p>1 生徒それぞれが知っていることを発表し、世界には女性や子どもの人権が認められない国々があることを知る。</p> <p>発問○この女性についてどんなことを知っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パキスタンで襲われて死にそうになった。 ・女性の人権を訴えている人。 ・国連で演説したことがある。 	<p>準備物：マララの写真</p> <p>○国際的な内容に目を向けさせ、世界にはさまざまな問題を抱えながら生活している人たちがいることを確認する。</p>
展開 40分	<p>2 教材「本とペンで世界を変えよう」を読み、話し合う。</p> <p>発問①女学校が破壊され、学校へ行けなくなったマララは、どんな思いだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強をしたいのに、なぜこんな目にあうのか。 ・女性だから勉強ができないなんて、許せない。 <p>発問②「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変えられる」という言葉には、マララのどんな思いが込められているのだろう。ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力や武力で動かせるものは何もない。 ・争いからは何も生まれるものはない。 ・「1」という数字は小さいけれど、それらが集まれば大きなものを動かせるという熱い思い。 <p>★発問③「考えてみよう」マララは新たにどんな目標に向かって歩きだしているのだろう。ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中のどんな人でも教育が受けられるような世の中をつくること。 ・一緒に行動してくれる人たちとともに、差別をなくす運動をしていく。 ・武力でなく、話し合うことの大切さを世界へ訴える。 ・政治家というのは手段で、大きな場で教育の大切さや平等についてアピールする。 <p>発問「自分に+1」私たちが世界平和の第一歩にできることがあるとしたら、それはどんなことだろう。ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなことを今はできないが、いろいろなことを知ることが、後に大きな変化につながると思う。 ・無関心でいることは、弱い立場にいる人々を苦しませるということを意識する。 ・1つでも多くのことを学ぶことが大切。 	<p>範読時間：約8分 準備物：女学校の写真</p> <p>○「女性だから」という理由で教育が受けられなくなってしまったマララ的心情を理解させる。</p> <p>○世界中の人と手を取り合って世界平和を築いていきたいというマララの思いから、世界平和について考えさせる。</p> <p>○自分の考えをまとめてからグループで話し合わせ、発表させる。</p> <p>○女性の人権だけでなく、広く世界の諸情勢に目を向けさせ、差別心や偏見をもたずに公正、公平に接するということが国際貢献につながることに気づかせる。</p> <p>問い返し「マララの目標は政治家になること」のように本文を読み取った発言があれば「目標はそれだけなのだろうか。」と問い返す。</p> <p>○世界規模の大きなことを変えていくためには、身近な問題について真剣に考えることが大切であることに気づかせる。</p>
終末 5分	<p>3 本時の感想を発表する。</p>	<p>○授業の振り返りを行い、生徒それぞれが感じたことや学んだことを発表させ、全体で共有する。</p>

授業準備の留意点

マララに事件が起きたときと同じ年代の生徒たちなので、とても共感のもてる教材です。中学3年生の2学期頃になると、生徒はさまざまな学習機会から、国際問題について多くのことを学んでいます。しかし一方で、その知識が断片的であったり、偏っていたりする場合もあるので、授業者はマララ・ユスフザイや当時のパキスタン情勢について調べておくことが大切です。

また、一人の勇気ある女性の生き方から、自分たちの周りに起きていること（いじめ問題や偏見、差別）にも気づかせるようにしましょう。

授業中のポイント

導入では、生徒たちに当時の状況を説明する必要があります。授業者は事前に調べておいた情報を適宜伝えましょう。詳しく説明したくなりますが、国や宗教によって考え方が大きく異なることを押さえ、時間をかけずに進めましょう。

マララの生き方とおして国際平和や国際貢献などの大きな内容に目を向けさせるためには、自分たちの周りの出来事についても気づかせ、考えさせることが大切です。「マララだからできた。」「マララはすごい人。」で終わらずに、発問「自分に+1」で自分事として考えさせるようにしましょう。

ノート記入時のポイント

発問②「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変えられる」という言葉には、マララのどんな思いが込められているのだろう。

ノート最上段にある「自由記入欄」を使って考えをまとめさせます。ここから中心発問につなげます。

★発問③「考えてみよう」マララは新たにどんな目標に向かって歩きだしているのだろう。

教科書掲載の発問から変更していますが、趣旨は同じなのでノートはそのまま使用させます。グループで話し合うためのメモ程度に書くとよいことを生徒に伝えましょう。上手に考えをまとめて書くというより、「単語」や「思い」などをメモするというイメ

ジです。グループや全体で発表する際に、「自分の考えを発表する準備をする場所」として活用できるといいですね。また、友達が発言したことや、気づいたことなども書き留めるように促しましょう。

発問「自分に+1」私たちが世界平和の第一歩にできることがあるとしたら、それはどんなことだろう。

大きなところ（世界規模の出来事）から急に身近なところを聞いているので、意見が整理できない生徒もいると思います。記入欄を埋めることが重要ではなく、共感できた友達の発言をメモするなどして、自分の考えがまとまっていく過程も大切であることを伝えましょう。

授業後の留意点

ノートの記述をもとに評価するときは、「自分に+1」に、マララとは環境が違う私たちにできることを、自分事として置き換えて記述しているかが大切になります。また、差別問題に目を向け、「公正、公平」の観点で記述する生徒もいると思います。授業者は、「公正、公平」も「国際理解、国際貢献」を実現するうえで重要な価値であることを押さえておきましょう。

31 世界平和を考える 本とペンで世界を変えよう

マララの「一人の子ども」という文に込められている思い。「1」というのを多量に用いている → この数字が集まれば世界を変えられる。1つのことでは状況は良くない。小さなことでも価値がある。

マララは今、新たにどんなことを目標にしているのだろう。

今までは諦めていた物事をぶひたいとやる(立ち上がる)ことが目標だった。今それが叶い、次にマララが目指すのは立ち上がるための仲間(又は世の人)と一緒に進んでいく。政治家に近づきたいのではなく、一緒に動く。

友達の意見や話し合いをメモしよう。

- 男性平等な教育
- SNS利用で幅広い発信。
- 国にむかえない、世界に向けて発信。
- 世界中の子供たち。

自分に+1 世界平和の第一歩には、どんなことがあるだろう。

私たちは世界の平和のために、何か行動するということを先に正しい情報を知る。このことでもマララさんのように動くのは難しい。今、14-5才の子どもたちができるのは沢山の情報を見聞きし、詳しく知ることだと思う。知った上で、変な世の身近なところから参加していく。

無知 → 関心 → 調査 → 知る → 伝える、周知 → 大きく行動していく。自分の意見を持つ。

自分への振り返り

今日の授業の内容は	印象に残った	印象に残らなかった
友達の意見や話し合いから、新しい発見や気づき	あった	なかった
自分の考えを深めることが	できた	できなかった
これから大切にしたいことが	わかった	わからなかった

32

マララの新たな目標

世界平和

弱い立場(女性や子ども)

差別のない社会

誰が教育を受けられる社会

政治家は手段

本とペンで世界を変えよう

私たちができる

一人の子ども

「1」を強調 → 大きなことに

小さなことでも世界を変えられる

教育が世界を変える

学校が破壊

許せない

悔しい

同じ人間なのに

予感していたが

理不尽

暴力を許さない

現実を知ると情報

無関心 → 変わらない

近い知識を身につける